

劇団かに座 稽古用台本 パート③

作ねじょう

※稽古用としてご自由にお使いください。

三十一 『友達 三人の会話』 三人

三十二 『四人の会話』 四人（男2 女2）

三十三 『五人の会話（仕事場）』 五人

三十四 『二人の会話（葛藤）』 二人



『友達 三人の会話』 三人

A あのさあ、ちよつと思つたんだけどさ、言つていい？

B なに？

A レモンティーってあるじゃない？

B うん。

A あれつて、ティーレモンって名前でもいいんじゃない？

B それはダメでしょう？ レモン味のするティーだからレモンティーだよな？ だったら、ティーの味がするレモンになつちゃうよ。

C なになに、何の話？

B レモンティーつて、ティーレモンつて名前でもいいんじゃないかってコイツが言い出したの。ダメでしょう？

C そうなの…そしたらさ、ミルクティーはどうなるの？ ティーミルクつてなる？ もうお茶だか牛乳だかわからないね。

A ミルクティーはミルクティーのまんまでしょう？

C なんで？ 紅茶頼むと「レモンにしますかミルクにしますか」って聞かれるでしょう？ 同等じゃないの？

A ミルクと紅茶はさ…液体同士だから。

B 確かにそうだね。レモンティーは果物と飲み物のマリァージュだけど、ミルクティーは飲み物同士のマリァージュ。

C だったら尚更さ、ティーミルクでも良くない？ 両方とも同等だったら、どっちかって言うと紅茶よりミルク 飲みたいって人もミルクティー 飲むんじゃない？

B そう言われるとそうか…

A もうさあ、話しこんがらがってきたから元に戻すけど、そもそもは、レモンティーについてだからね。

C でも、だからってミルクティーは無視できないでしょう？

B そう言えばさ、抹茶ラテって、あれ何？ 抹茶なの？ ラテなの？

A えー。今は…抹茶ラテは、いいよ。

C だいたいさ、ラテってなんなの？

『四人の会話』 四人（男2女2）

母 アンタ、最近帰ってくるのが遅いんじゃないの？

娘 だってしょうがないでしょ？ー私も二十三なんだから、付き合いつかあるんだからさ。

母 だったら、お母さんに「遅くなる」とかラインくればいいでしょう。全くスマホばっかじってんのに、肝心な所の連絡無いんだから。

娘 それはどうも申し訳ございませんでした！

母 何その言い方。全然反省してない！ 謝罪の気持ち伝わらず、だね。

父 またケンカしてんのか？ 休みの日くらい静かにしてらんないのかな。

母 何その言い方は？まるで私らが休みの日のたんびにケンカしてるみたいじゃない？

父 休みの日のたんびには言わないけど、半分以上はケンカしてるんじゃないの？

娘 私は静かに過ごしたいんだけど、いつもお母さんが吹っ掛けてくるんだよねえ。

母 何言ってるの。元々はさ、昨日の夜にアンタの帰りが遅くて、連絡もしてこないのがいけないんでしょう？

娘 だからそれは謝ったじゃん。

母 あんなの謝ったうちに入りませーん。

父 もついいから、静かにしようよ。二人ともいい大人なんだから、みっともないよ。

弟 何なに？ またやってんの？ 飽きずによくやるよね。

母 アンタまでなんなの？ こんな遅い時間に起きてきて偉そうに。

弟 うわ怖っ。怒りの乱れ撃ち？ しょうがないでしょう。昨日、俺バイトから帰ってきたの家族で一番遅かったんだから。

娘 ホラ、私より遅いヤツがいたじゃん！ それに比べりゃ私早い方だよ。

母 何でみんな遅いのよ！ 夕飯準備している身にもなんなさいよ。

父 じゃあ家族の中で俺が一番早いんだな。七時半には帰ってたから。

母 あら、そうだったっけ？ お父さんの帰った時間なんて全然気にしてなかったわ。

娘 それはそれでどうなのよ。

『五人の会話(仕事場)』 五人

- A ちよつとゴメン。この書類つて、作ったの誰かな？
- B 私ですけど。何かありましたか？
- A ここなんだけどさ、この書き方だと、お客さんがちよつと分かりづらいと思うんだけど。
- B ああ、わかりました。でもこの部分は私じゃないですよ。部長が考えたんです。
- C 何か私の事？ ああ、その書類？ このへんがおかしいって言うの？
- A あ、別に変じゃないですよ。このへんは部長なんですよね。的確な表現だな誰が考えたのかなと思ひまして。
- C そうなの？ なんかわかりづらいって言うてなかった？
- A ああ、それは…ここ、この部分なんですよ。読んでいて、ちよつと表現が嫌らしい感じかなあと。
- C そこは私が考えたんじゃないね。
- B そこは、常務の案です。
- D なんか呼ばれたみたいだけど、なんででしょう？
- C どうも常務。何か、常務の考えた案に、不満があるみたいですよ。
- D そうなの…どつという点でしょう？
- A ああいや、別に不満つてわけじゃないですよ。そこは大変文句のつけようもないんですが…この最後の部分。
- この終わり方でどうかなあ、お客さんに誤解を招くかなと感じまして…
- B 最後の部分ですか？ そこを書いたのは、常務でも部長でもありません。
- A そうか。君が書いたんだね。こんな書き方されてしまうと、うちの会社全体が誤解されると思うんだよねえ。
- B そうですか、すみません。でも、そこを書いたのは社長です。
- E 私の事を呼びましたか？ 何かあつたらどんどん言つてください。私は風通しのいい会社を目指していますので。
- A 言いたい事なんて全然全くありませんよ。この文章社長が考えたんですか？ いやーさすがですねえ。
- E そうですか。ありがとうごさいますね。私が考えたけど、最後に手直ししてくれたのは確か…
- B 私です。

劇団かに座 稽古用台本 三一四

『二人の会話(葛藤)』 二人

- A さあどうする？ お前がその秘密を吐かなければ、こちらにもいろいろやり方ってものがあるんだぞ。
- B フン！ どんな拷問にも屈しないような訓練は散々受けてきたんだ。やれるもんならやってみろ。
- A 確かにそうだな。電流もムチ打ちも効かなかった。それでは、これはどうだ？
- B なんだそれは？ 犬じゃないか。小さくて可愛い…チワワだな。
- A そうだ。この可愛いチワワを…いじめよう。エイ・エイ・エイ！
- B ウオ！ か、かわいそうだ！ やめろ！ かわいそうだろう、やめろってば！
- A お前が秘密を言うのなら、このチワワを許してあげるぞ。ほれどうだどうだ！
- B ウワァァァ… 許せ、チワワァァァ…
- A これじゃダメか。じゃあ、今度はこっちだ。ほれ、三毛猫だぞ。
- B そ、そんな可愛い三毛猫をどうするんだ？
- A こうするんじゃない！ ほれほれほれほれ。あー、痛そうな鳴き声だな！
- B ウワァァァ… み、三毛猫をそんな形で、引っ張らないでくれえー！ く、苦しい、猫愛が苦しい！
- A どうだどうだどうだ！ もう隠している秘密を出して、この三毛猫をなでれば良からう？
- B す、すまぬ三毛猫おー！ 俺にはお前を救えない！
- A これでもダメか。じゃあ、今度こそ、これでどうだ？
- B そ、そ、それは…
- A どうだ？ 小さくてモフモフの、超かわいい、ウサギだあー！
- B そんなウサギを、お前は どうするんだ？
- A フッフ、これをな、こうしてやる… あーうさちゃん、痛いか痛いか痛いやねえー？
- B や、やめろやめろやめろ… わ、分かった。全部出すから、やめてくれー！
- A それでいいんだそれで。て、ずらせばよ。て、
- B こ、これが「ハムスターを愛する会員」の名簿だ。